

News Release

働く女性のくらしとお金に関する調査2020

～希望する働き方 “バリキャリ”志向は少数派、“ゆるキャリ”志向が7割近くに

日本FP協会（所在地 東京都港区、理事長 白根壽晴）は、2020年2月4日～2月6日の3日間、全国の20代～50代の就業女性を対象に、今回で4回目となる「働く女性のくらしとお金に関する調査」をインターネットリサーチで実施し、1,200名の有効サンプルの集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

■調査結果の概要

【働く女性のホンネ】

……2～13 ページ

- ◆働く女性の4割近くが「家庭に注力したい」と回答、20代女性では4割半
- ◆希望する働き方 “バリキャリ”志向は少数派、“ゆるキャリ”志向が7割近くに
- ◆未婚女性の7割が「結婚後も仕事を続けたい」、7割強が「結婚後は仕事の量を減らしたい」と回答
- ◆「女性は出世するほど、結婚相手が見つかりにくくなると思う」働く女性の6割強が実感
- ◆働く20代女性の4割強が「夫が専業主夫になること」に肯定的
- ◆専業主夫をお願いしたい男性有名人 4位に「向井理さん」、1位は？
- ◆残業時間が短くなったら、浮いた時間を何にあてたい？ 1位「家事」2位「睡眠」、50代の4位は「副業」
- ◆夫の残業時間が短くなったら、何にあててほしい？ 1位「家族とのコミュニケーション」2位「家事」
- ◆「なんでも相談できる理想のパートナー」 1位「所ジョージさん」2位「田中圭さん」
- ◆働く20代女性の4割半が「産休・育休の取得促進/拡充」、3割が「男性の育休取得の促進」に期待
- ◆理想のビジネスウーマン 1位「天海祐希さん」2位「米倉涼子さん」3位「篠原涼子さん」「松嶋菜々子さん」

【働く女性のくらしとマネープラン】

……14～27 ページ

- ◆働く女性の4割半が「貯蓄上手」、半数が「節約上手」を自認
- ◆生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていること 1位「変動費の節約」2位「家計簿をつける」
- ◆節約のために行っていること 1位「エコバッグ使用」働く50代女性の半数が「特売品購入」で節約
- ◆生活の余裕や貯蓄を増やすために取り組みたいこと 40代女性の1位は「副業で収入を増やす」
- ◆働く女性の副業収入 月平均額は17,054円、昨年平均額よりも3,176円アップ
- ◆消費税率引き上げ後、節約するようになった費用 1位「食費」2位「外食・飲み会」3位「日用品費」
- ◆働く女性の軽減税率対象品目の認知率、昨年調査より34ポイント上昇
- ◆「消費税率引き上げ後、キャッシュレス決済を積極的に利用」働く女性の6割強
- ◆働く女性が結婚資金として準備しておくべきだと思ふ金額 平均186万円
- ◆住宅購入資金（頭金）のイメージは平均700万円、老後の生活資金のイメージは平均1,479万円
- ◆働く女性が自分へのごほうびにかけたい金額 平均10,914円/月、20代の平均は12,986円/月
- ◆働く女性がお金をかけたい「自分へのごほうび」は？ 1位「おいしい食べ物・外食」2位「旅行」
- ◆「幼児教育・保育の無償化」働く母親の認知率は68%、子どもが未就学児の人では79%が認知
- ◆「人生100年時代のキャリアプランに有効なアドバイスをくれそうな有名人」
男性有名人1位は「タモリさん」「明石家さんまさん」女性有名人1位は「天海祐希さん」
- ◆「お金の相談に有効なアドバイスをくれそうな有名人」男性有名人1位は「池上彰さん」、女性有名人1位は？

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、

「日本FP協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先				
担 当	日本FP協会 広報部 広報課 井上・鈴木	TEL	FAX	E-mail
		03-5403-9742	03-5403-9795	info@jafp.or.jp

日本FP協会は、社会教育活動としてファイナンシャル・プランニングの普及とパーソナルファイナンス教育を推進し、社会全体の利益の増進に寄与することを目的としたNPO法人です。また、パーソナルファイナンス教育の担い手となる高い能力と高い倫理観をもったファイナンシャル・プランナー（CFP®・AFP認定者）を養成しています。

特定非営利活動法人（NPO 法人）日本FP協会

<本部事務所> 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F

TEL 03-5403-9700(代) FAX 03-5403-9701

<大阪事務所> 〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜 1-4-19 マニユライフプレイス堂島 5F

TEL 06-6344-8063 FAX 06-6344-8065

100 人生100年の
家計戦略

アンケート調査結果

【働く女性のホンネ】

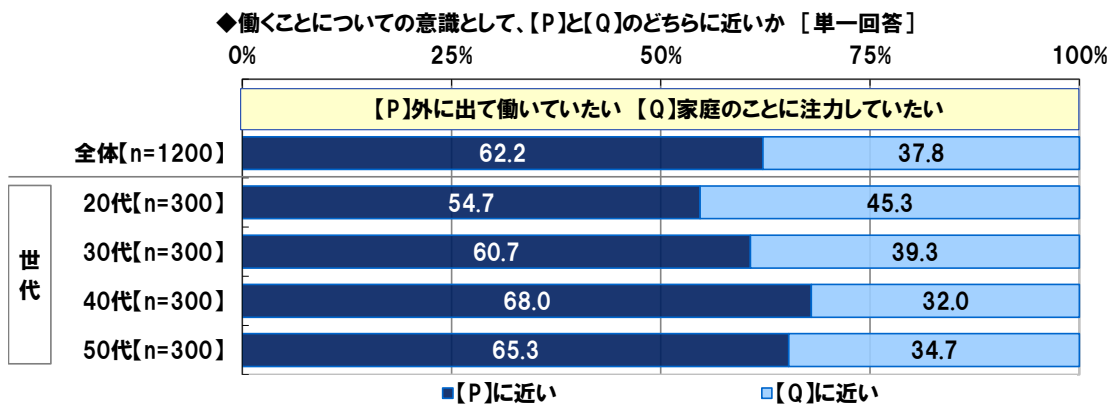
- ◆働く女性の4割近くが「家庭に注力したい」と回答、20代女性では4割半
- ◆希望する働き方“バリキャリ”志向は少数派、“ゆるキャリ”志向が7割近くに

全国の20代～50代の就業女性1,200名（全回答者）に、仕事や働き方に関する意識について聞きました。

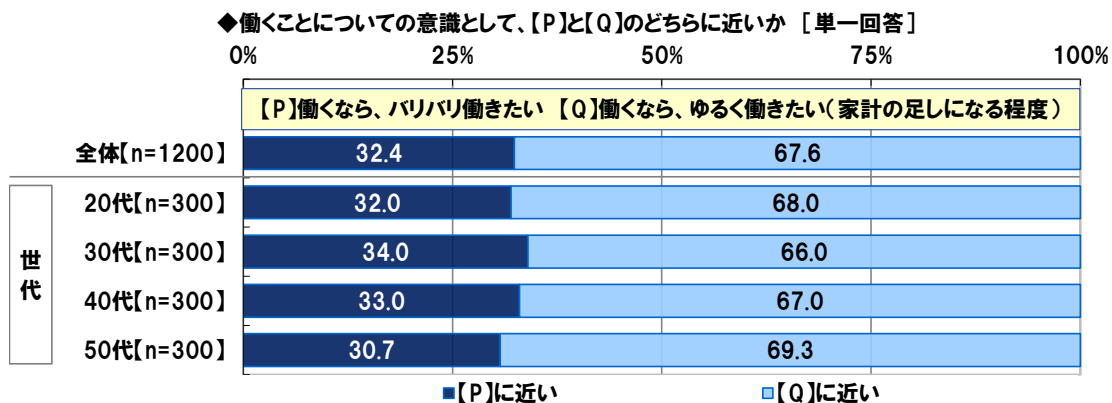
はじめに、全回答者（1,200名）に、働くことについての意識に関する2つの内容のうち、自身がどちらに近いかを聞きました。

「外に出て働いていたい」と「家庭のことに注力していたい」のどちらに近いか聞いたところ、「外に出て働いていたい」が62.2%、「家庭のことに注力していたい」が37.8%となりました。

「家庭のことに注力していたい」の割合を世代別にみると、20代（45.3%）が最も高くなりました。

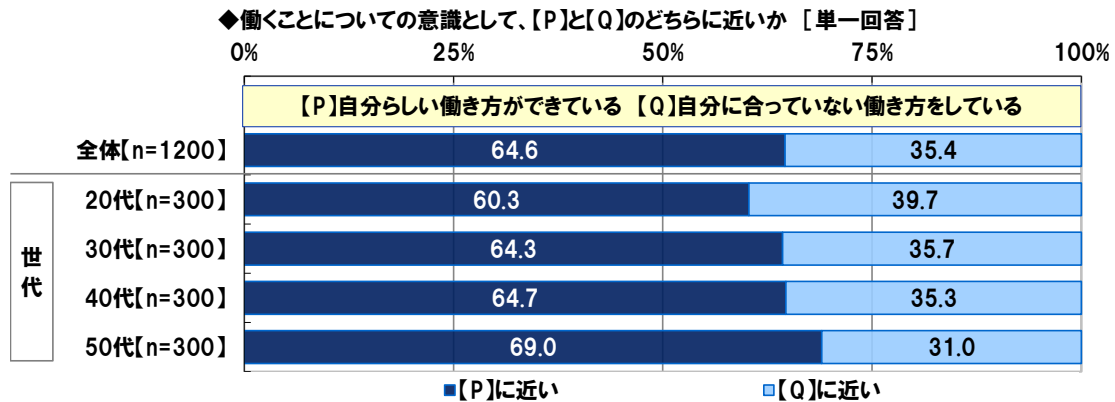


次に、「働くなら、バリバリ働きたい」と「働くなら、ゆるく働きたい（家計の足しになる程度）」のどちらに近いか聞いたところ、「働くなら、バリバリ働きたい」が32.4%、「働くなら、ゆるく働きたい」が67.6%となり、第一線でバリバリ働く“バリキャリ”よりも、ゆるく働く“ゆるキャリ”を志向する女性が多数派となりました。仕事最優先ではなく、プライベートとのバランスを取って働きたいと考える人が多いのではないのでしょうか。



また、「自分らしい働き方ができている」と「自分に合っていない働き方をしている」のどちらに近いか聞いたところ、「自分らしい働き方ができている」が 64.6%、「自分に合っていない働き方をしている」が 35.4%となりました。

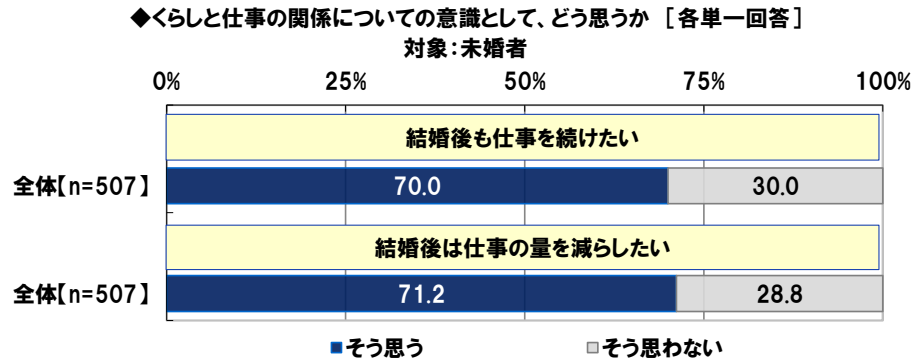
「自分に合っていない働き方をしている」の割合を世代別にみると、20代 39.7%、30代 35.7%、40代 35.3%、50代 31.0%と、若い世代ほど高い傾向がみられました。今の働き方にギャップを感じている人は若い世代に多いことがわかりました。



◆未婚女性の7割が「結婚後も仕事を続けたい」、7割強が「結婚後は仕事の量を減らしたい」と回答

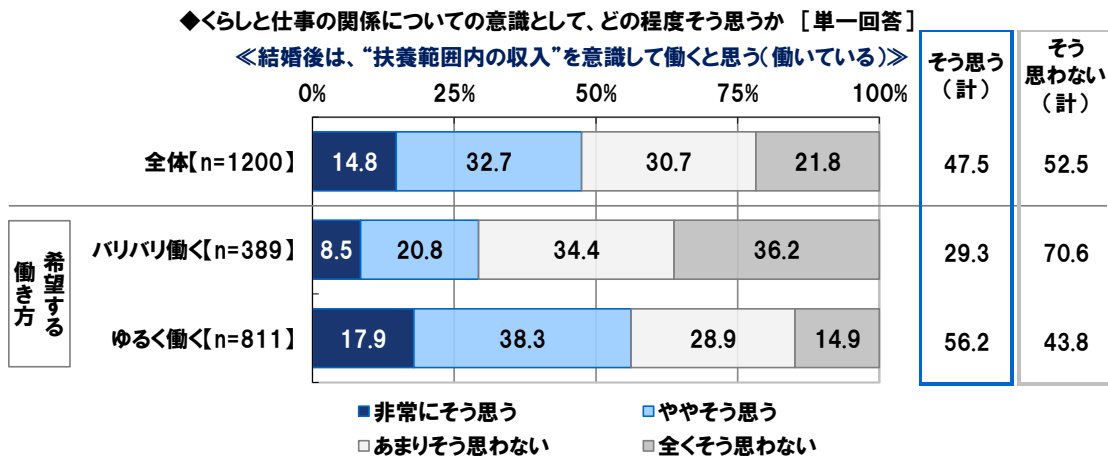
結婚後の働き方については、どのように考えている女性が多いのでしょうか。

未婚者(507名)に、「結婚後も仕事を続けたい」と思うか聞いたところ、「そう思う」は70.0%となりました。また、「結婚後は仕事の量を減らしたい」と思うか聞いたところ、「そう思う」は71.2%となりました。結婚してからも働き続けたいという人が多数派となったものの、多くの人は仕事量をセーブして働くことを想定しているようです。



次に、全回答者(1,200名)に、「結婚後は、“扶養範囲内の収入”を意識して働くと思う(働いている)」か聞いたところ、『そう思う(計)』(「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同様)が47.5%、『そう思わない(計)』(「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」の合計)が52.5%と、拮抗する結果となりました。

『そう思う(計)』の割合を希望する働き方別にみると、バリバリ働きたい人では29.3%、ゆるく働きたい人では56.2%となりました。“ゆるキャリ”を志向する女性の多くは、扶養控除を意識した働き方を選ぶようです。



◆アルバイト・パートタイムで働く既婚女性の2割が、配偶者特別控除の拡大による「良い影響」を実感

2017年度税制改正により、2018年1月から配偶者特別控除が拡大され、夫が配偶者特別控除の対象となる、妻の年収要件の上限額が引き上げられました。配偶者がいる人(570名)に、この改正による影響や、配偶者特別控除の拡大に関する意識について聞きました。

まず、この改正で、自身の家計は良い影響(夫の控除額変更など)を受けたか聞いたところ、「を受けた」は17.4%となりました。

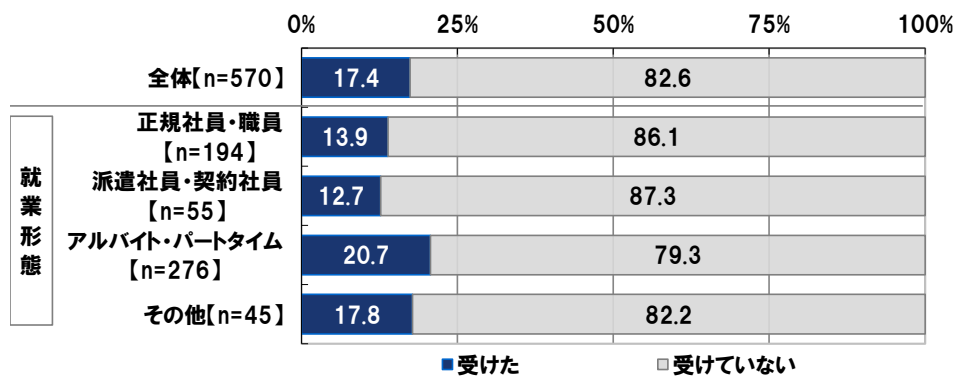
「を受けた」の割合を就業形態別にみると、アルバイト・パートタイム(20.7%)が最も高くなりました。

また、この改正がきっかけで、自身の働き方が変わったか聞いたところ、「変わった」は11.9%となりました。

◆配偶者特別控除の拡大による影響 [単一回答]

対象:配偶者がいる人

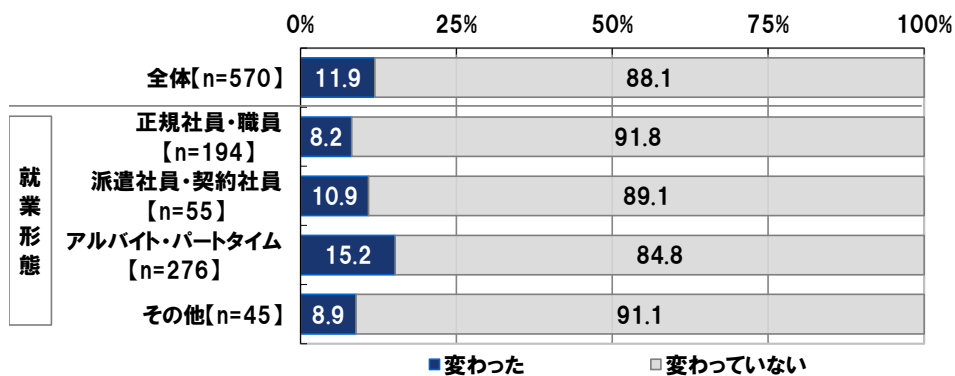
《この改正で、自身の家計は良い影響を受けたか》



◆配偶者特別控除の拡大による影響 [単一回答]

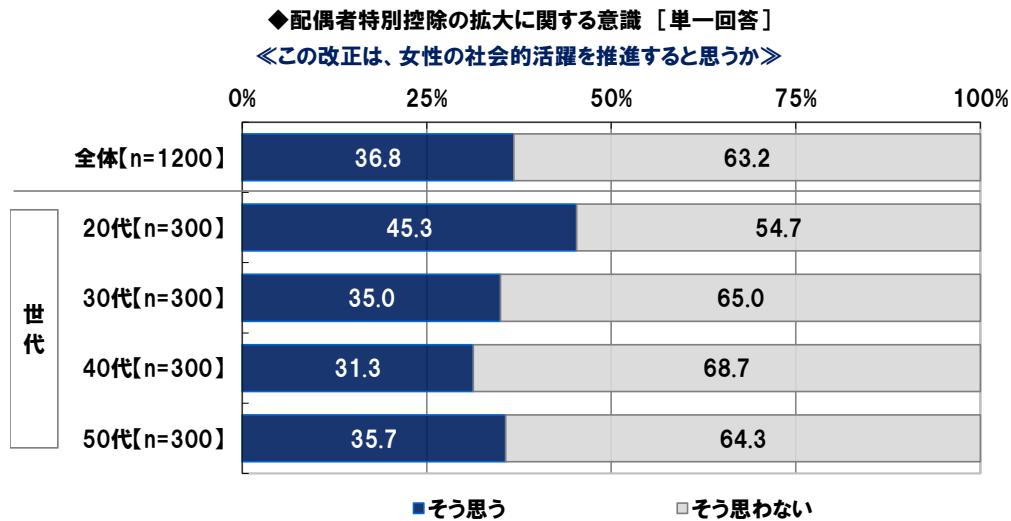
対象:配偶者がいる人

《この改正がきっかけで、自身の働き方が変わったか》



全回答者(1,200名)に、この改正は、女性の社会的活躍を推進すると思うか聞いたところ、「そう思う」は36.8%、「そう思わない」は63.2%となりました。

「そう思う」の割合を世代別にみると、20代(45.3%)が最も高くなりました。20代女性には、配偶者特別控除の制度改正が女性の社会的活躍につながると期待している人が多いようです。



- ◆「女性は出世するほど、結婚相手が見つかりにくくなると思う」働く女性の 6 割強が実感
- ◆働く女性の 6 割強が「育休取得はキャリア形成にマイナス影響」と懸念
- ◆ロールモデル不足？ 働く女性の 7 割半が「周りには女性管理職が少ないと思う」と回答

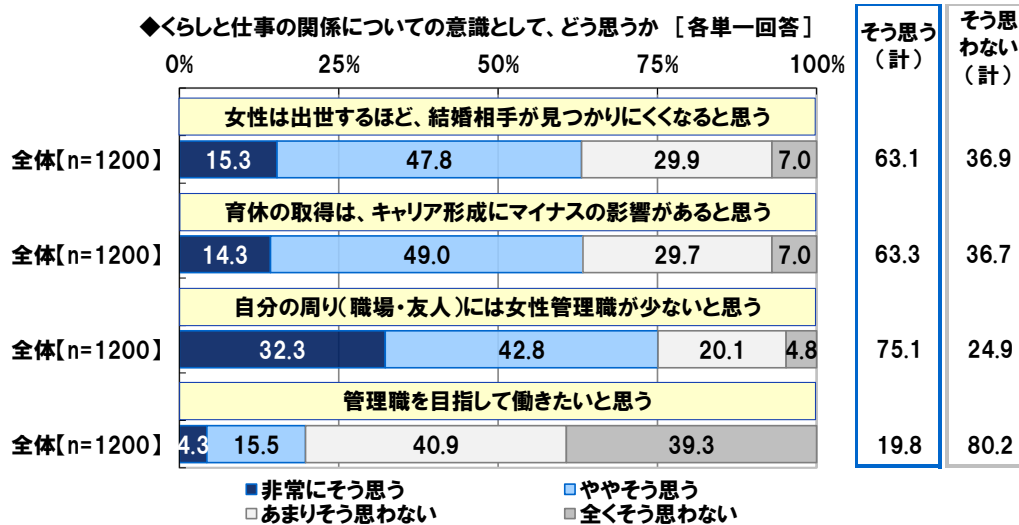
全回答者(1,200 名)に、女性のキャリア形成に関する意識について聞きました。

《女性は出世するほど、結婚相手が見つかりにくくなると思う》か聞いたところ、『そう思う(計)』が 63.1%となりました。女性の出世と結婚は両立しにくいというイメージを持っている人が多いようです。

《育休の取得は、キャリア形成にマイナスの影響があると思う》では、『そう思う(計)』が 63.3%となりました。働く女性の多くが、育休を取ることで、キャリア形成に悪影響を及ぼすと考えていることがわかりました。

《自分の周り(職場・友人)には女性管理職が少ないと思う》では、『そう思う(計)』が 75.1%となりました。

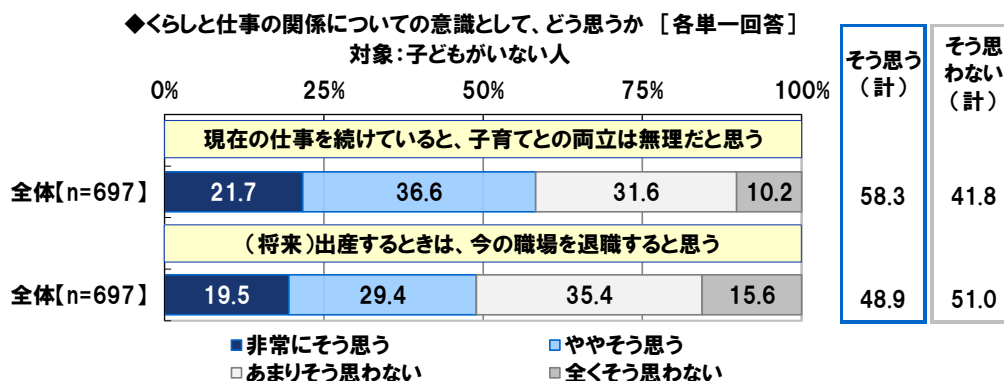
また、《管理職を目指して働きたいと思う》では、『そう思う(計)』が 19.8%となりました。管理職を目指したい女性の割合は高くないようです。育児とキャリア形成の両立が難しかったり、身近にロールモデルが少なかったりと、女性管理職を目指しにくい要因が存在しているのではないのでしょうか。



子どもがいない人(697 名)に、出産・子育てと、仕事との両立に関する意識について聞きました。

《現在の仕事を続けていると、子育てとの両立は無理だと思う》では、『そう思う(計)』が 58.3%、『そう思わない(計)』が 41.8%となりました。現在の仕事と子育てとの両立に不安を感じている人が多いようです。

また、《(将来)出産するときは、今の職場を退職すると思う》か聞いたところ、『そう思う(計)』が 48.9%、『そう思わない(計)』が 51.0%と、拮抗する結果になりました。現在の仕事と子育てとの両立は難しいと感じながらも、退職はしたくないと葛藤する女性がいるのではないのでしょうか。



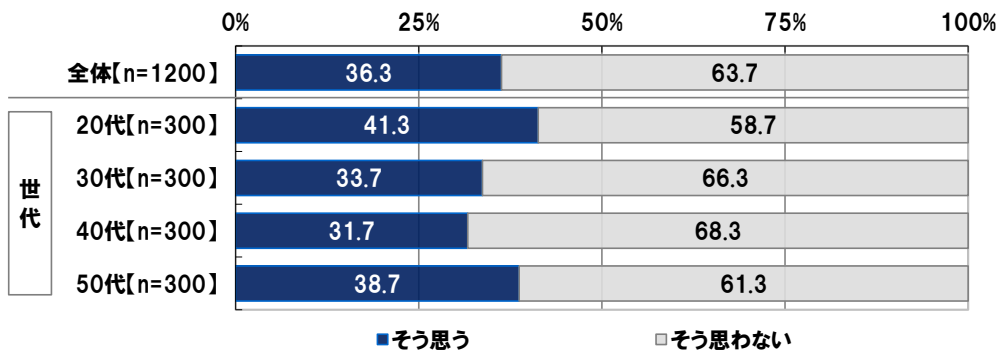
◆働く20代女性の4割強が「夫が専業主夫になること」に肯定的
◆専業主夫をお願いしたい男性有名人 4位に「向井理さん」、1位は？

近年、性別による固定的な役割分担にとらわれない、ジェンダーフリーの考え方が浸透しつつあります。家庭での役割分担について、どのように考えている人が多いのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、結婚後に(夫が望むなら)夫が専業主夫になってもいいと思うか聞いたところ、「そう思う」が36.3%、「そう思わない」が63.7%となりました。夫が専業主夫になることは許容できない人が多いようです。

「そう思う」の割合を世代別にみると、20代(41.3%)が最も高くなりました。20代には、家庭での夫婦の役割分担について、柔軟な考えを持っている人が多いようです。

◆結婚後に(夫が望むなら)夫が専業主夫になってもいいと思うか [単一回答]



全回答者(1,200名)に、「家事も育児も家計管理もできそうで専業主夫をお願いしたい男性」のイメージにあてはまる男性有名人を聞いたところ、1位は「つるの剛士さん」(64名)、2位は「速水もこみちさん」(36名)、3位は「杉浦太陽さん」(34名)となりました。トップ3は昨年(2019年)の調査と同じ結果となりました。また、昨年の調査(※)で10位圏外だった「向井理さん」(25名)が4位となりました。ドラマでシングルファーザー役を演じている向井理さんの姿をみて、「こんな人に専業主夫を任せたい」と感じた人が多いのではないのでしょうか。

※『働く女性のくらしとお金に関する調査 2019』

https://www.jafp.or.jp/about_jafp/katsudou/news/news_2018/files/newsrelease20190312.pdf

＜2020年調査＞

◆「家事も育児も家計管理もできそうで専業主夫をお願いしたい男性」のイメージにあてはまる男性有名人 [自由回答]
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

順位	回答	人数
1位	つるの剛士	64
2位	速水もこみち	36
3位	杉浦太陽	34
4位	向井理	25
5位	西島秀俊	22
6位	木村拓哉	17
7位	堺雅人	12
8位	谷原章介	12
9位	田中圭	11
10位	ヒロミ	9
	高橋一生	9
	家事えもん(松橋周太呂)	9

＜2019年調査＞

◆「家事も育児も家計管理もできそうで専業主夫をお願いしたい男性」のイメージにあてはまる男性有名人 [自由回答]
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

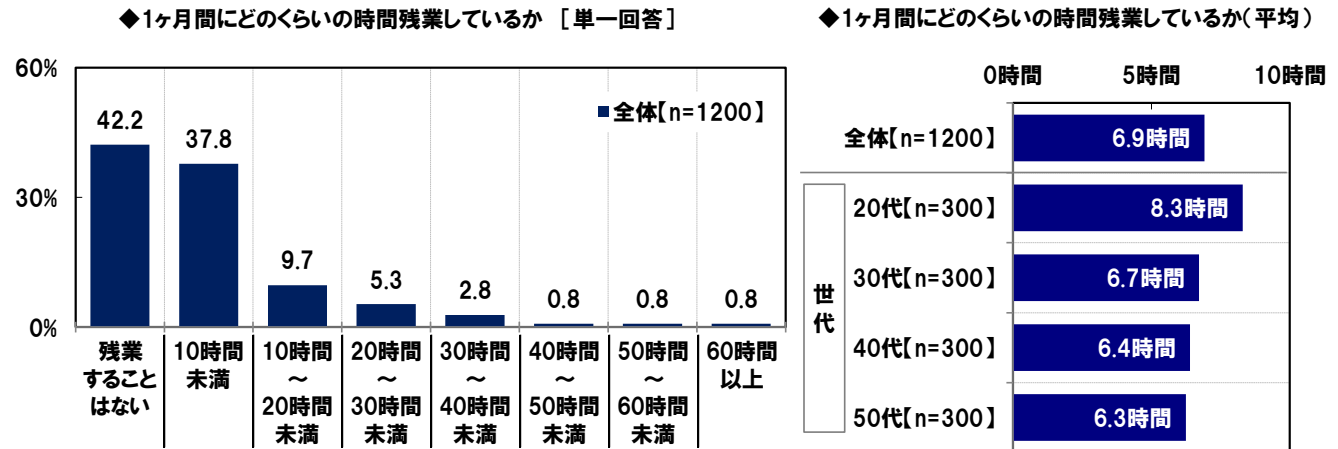
順位	回答	人数
1位	つるの剛士	74
2位	速水もこみち	64
3位	杉浦太陽	39
4位	西島秀俊	31
5位	堺雅人	17
6位	ヒロミ	14
	ムロツヨシ	14
	谷原章介	14
9位	家事えもん(松橋周太呂)	13
10位	阿部寛	11

◆残業時間が短くなったら、浮いた時間を何にあてたい？ 1位「家事」2位「睡眠」、50代の4位は「副業」

全回答者(1,200名)に、1ヶ月間に、どのくらいの時間残業しているか聞いたところ、「残業することはない」(42.2%)が最も高くなり、次いで、「10時間未満」(37.8%)に多くの回答が集まりました。

また、1ヶ月間の平均残業時間は6.9時間となりました。

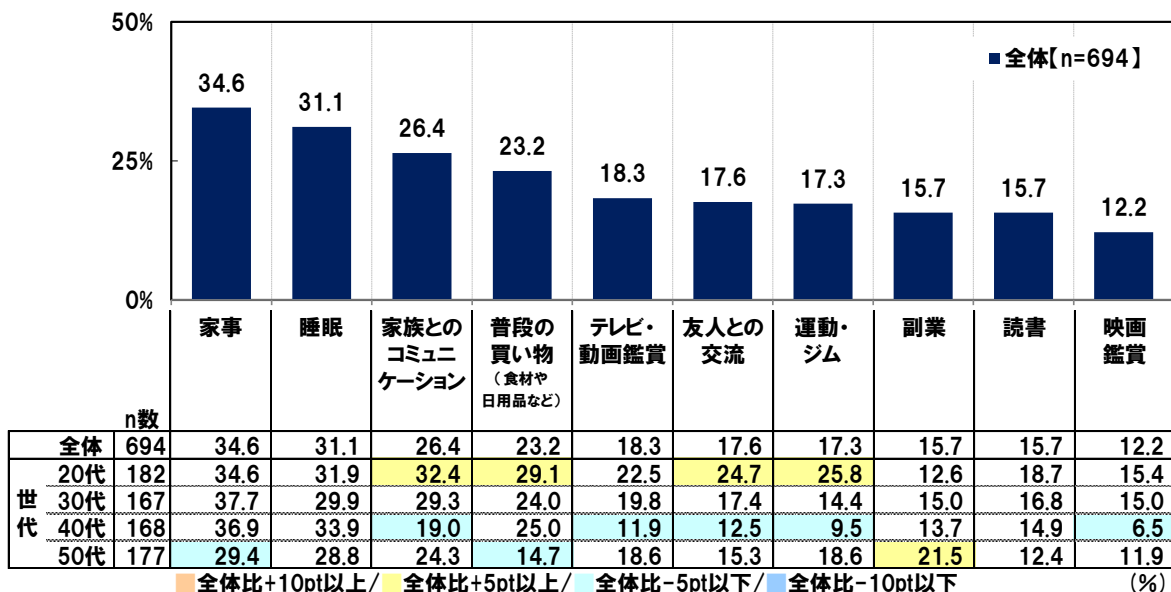
平均残業時間を世代別にみると、20代(8.3時間)が最も長くなりました。



残業することがある人(694名)に、もし、残業時間が現在よりも短くなったら、浮いた時間をどのようなことにあてたいか聞いたところ、「家事」(34.6%)が最も高く、次いで、「睡眠」(31.1%)、「家族とのコミュニケーション」(26.4%)、「普段の買い物(食材や日用品など)」(23.2%)、「テレビ・動画鑑賞」(18.3%)となりました。家事時間や睡眠時間を増やしたいと考えている人が多いようです。

世代別にみると、20代では「家族とのコミュニケーション」(32.4%)や「友人との交流」(24.7%)、50代では「副業」(21.5%)が、他の世代と比べて高くなりました。

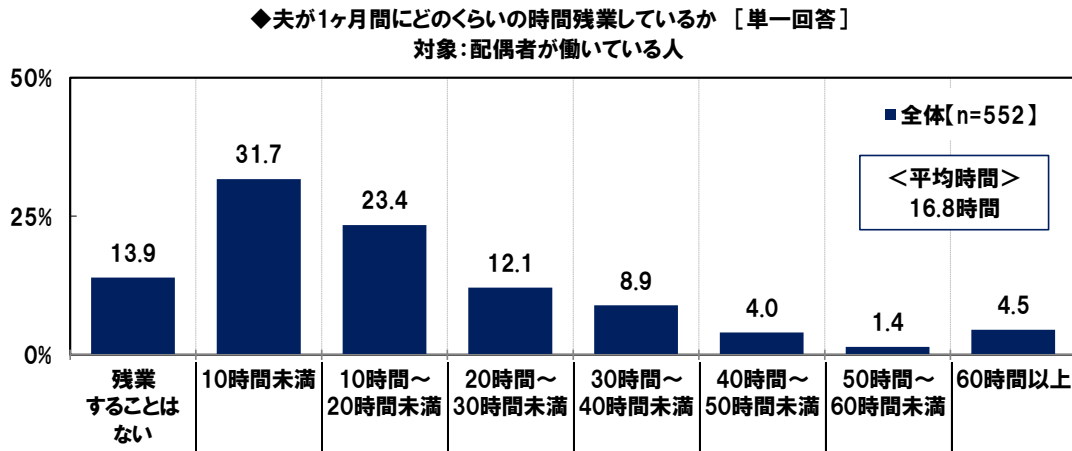
◆残業時間が現在よりも短くなったら、浮いた時間をどのようなことにあてたいか [複数回答可] ※上位10位までを抜粋
対象: 残業することがある人



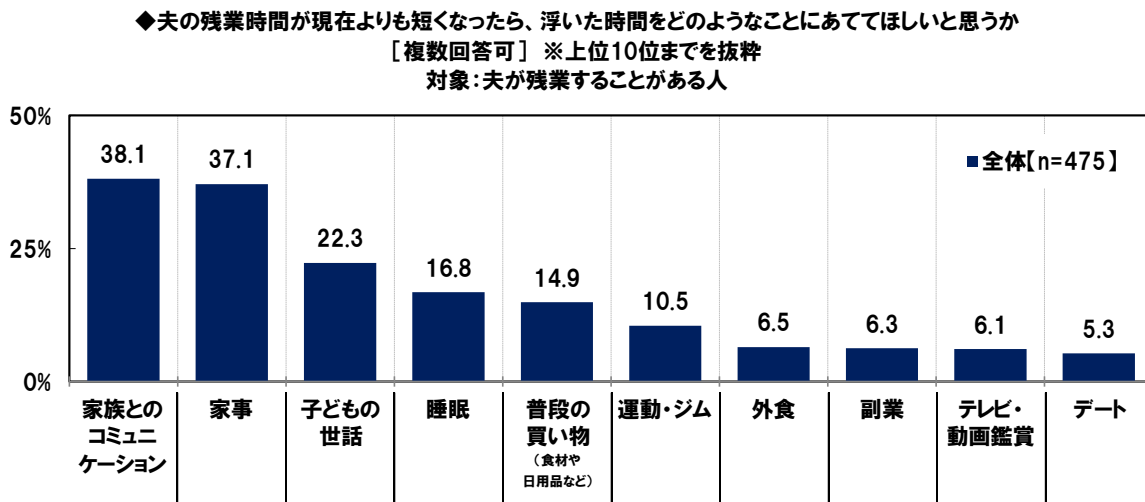
◆夫の残業時間が短くなったら、何にあててほしい？ 1位「家族とのコミュニケーション」2位「家事」

続いて、夫の残業時間について聞きました。

配偶者が働いている人(552名)に、夫は1ヶ月間にどのくらいの時間残業しているか聞いたところ、「10時間未満」(31.7%)や「10時間～20時間未満」(23.4%)に回答が集まり、平均残業時間は16.8時間でした。



配偶者が残業している人(475名)に、夫の残業時間が現在よりも短くなったら、浮いた時間をどのようなことにあててほしいと思うか聞いたところ、「家族とのコミュニケーション」(38.1%)が最も高く、次いで、「家事」(37.1%)、「子どもの世話」(22.3%)、「睡眠」(16.8%)、「普段の買い物(食材や日用品など)」(14.9%)となりました。家族との会話など、コミュニケーションの時間を増やしてほしいと思う人が多いようです。



◆「なんでも相談できる理想のパートナー」 1位「所ジョージさん」2位「田中圭さん」

全回答者(1,200名)に、「なんでも相談できる理想のパートナー」のイメージにあてはまる男性有名人を聞いたところ、1位「所ジョージさん」(26名)、2位「田中圭さん」(23名)、3位「大泉洋さん」「明石家さんまさん」(いずれも19名)となりました。また、昨年の調査結果(※)で10位圏外だった「内村光良さん」(18名)が5位となりました。

※『働く女性のくらしとお金に関する調査 2019』

https://www.jafp.or.jp/about_jafp/katsudou/news/news_2018/files/newsrelease20190312.pdf

＜2020年調査＞

◆「なんでも相談できる理想の男性パートナー」のイメージにあてはまる男性有名人〔自由回答〕
全体【n=1200】 ※上位10位までを抜粋

順位	回答	人数
1位	所ジョージ	26
2位	田中圭	23
3位	大泉洋	19
	明石家さんま	19
5位	内村光良	18
6位	福山雅治	16
7位	西島秀俊	14
	櫻井翔	14
9位	タモリ	13
	向井理	11
10位	木村拓哉	11

＜2019年調査＞

◆「なんでも相談できる理想の男性パートナー」のイメージにあてはまる男性有名人〔自由回答〕
全体【n=1200】 ※上位10位までを抜粋

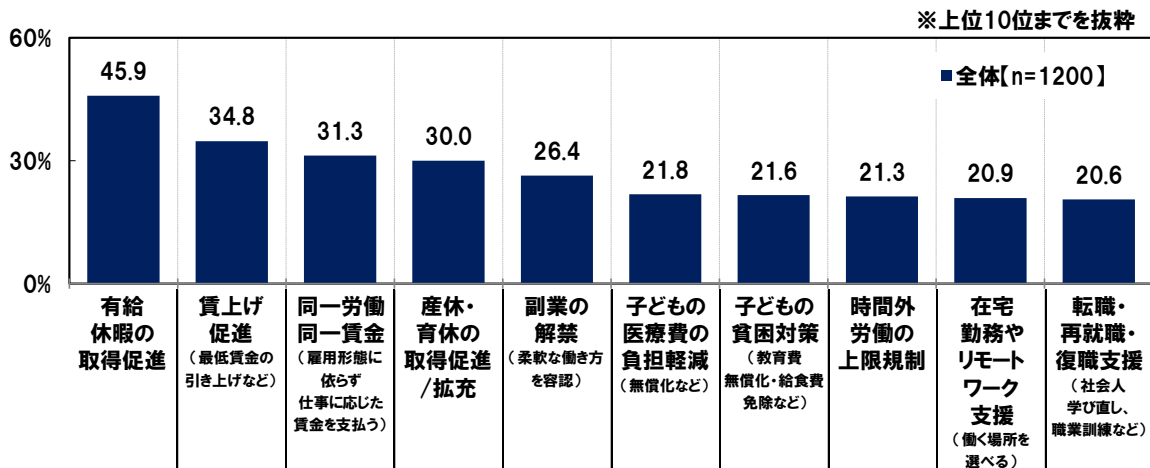
順位	回答	人数
1位	ムロツヨシ	24
	櫻井翔	24
3位	所ジョージ	20
4位	西島秀俊	18
	田中圭	18
6位	向井理	17
7位	高橋一生	16
	大泉洋	16
9位	福山雅治	15
10位	阿部寛 / 木村拓哉 明石家さんま	各14

◆働く20代女性の4割半が「産休・育休の取得促進/拡充」、3割が「男性の育休取得の促進」に期待

近年、働き方改革により、働き方や休み方についての様々な取り組みが進められています。

全回答者(1,200名)に、くらしや働き方・休み方について、重要だと思う取り組みを聞いたところ、「有給休暇の取得促進」(45.9%)が最も高く、次いで、「賃上げ促進(最低賃金の引き上げなど)」(34.8%)、「同一労働同一賃金(雇用形態に依らず仕事に応じた収入を支払う)」(31.3%)、「産休・育休の取得促進/拡充」(30.0%)、「副業の解禁(柔軟な働き方を容認)」(26.4%)となりました。

◆くらしや働き方・休み方について、重要だと思う取り組み [複数回答可]



世代別にみると、20代では「産休・育休の取得促進/拡充」(44.0%)が2位、「男性の育休取得の促進」(30.0%)が4位となりました。働く20代女性には、育児関連の取り組みを重視している人が多いようです。

◆くらしや働き方・休み方について、重要だと思う取り組み [複数回答可]

※各上位5位までを抜粋

20代[n=300]			30代[n=300]		
順位	回答	%	順位	回答	%
1位	有給休暇の取得促進	54.0	1位	有給休暇の取得促進	43.7
2位	産休・育休の取得促進/拡充	44.0	2位	賃上げ促進 (最低賃金の引き上げなど)	33.3
3位	賃上げ促進 (最低賃金の引き上げなど)	34.7	3位	産休・育休の取得促進/拡充	31.3
4位	男性の育休取得の促進	30.0	4位	同一労働同一賃金 (雇用形態に依らず仕事に応じた収入を支払う)	29.7
5位	副業の解禁 (柔軟な働き方を容認)	29.3	5位	子どもの医療費の負担軽減 (無償化など)	24.3

40代[n=300]			50代[n=300]		
順位	回答	%	順位	回答	%
1位	有給休暇の取得促進	39.7	1位	有給休暇の取得促進	46.3
2位	賃上げ促進 (最低賃金の引き上げなど)	33.7	2位	同一労働同一賃金 (雇用形態に依らず仕事に応じた収入を支払う)	40.7
3位	同一労働同一賃金 (雇用形態に依らず仕事に応じた収入を支払う)	29.0	3位	賃上げ促進 (最低賃金の引き上げなど)	37.3
4位	副業の解禁 (柔軟な働き方を容認)	26.0	4位	副業の解禁 (柔軟な働き方を容認)	27.0
5位	子どもの貧困対策 (教育費無償化・給食費免除など)	22.7	5位	いわゆる“働き損”の解消 (配偶者控除の見直しなど)	26.7

◆理想のビジネスウーマン 1位「天海祐希さん」2位「米倉涼子さん」3位「篠原涼子さん」「松嶋菜々子さん」

全回答者(1,000名)に、「働く女性のお手本となる理想のビジネスウーマン」のイメージにあてはまる女性有名人を聞いたところ、「天海祐希さん」(266名)が2位に大差をつけてのトップとなりました。天海祐希さんがドラマで演じてきた役柄のような、パワフルに仕事をこなす女性に憧れる人が多いのではないのでしょうか。2位は「米倉涼子さん」(41名)、3位は「篠原涼子さん」「松嶋菜々子さん」(いずれも24名)となりました。松嶋菜々子さんは昨年の調査結果(※)での8位から、今年は3位にランクアップしました。

※『働く女性のくらしとお金に関する調査 2019』

https://www.jafp.or.jp/about_jafp/katsudou/news/news_2018/files/newsrelease20190312.pdf

＜2020年調査＞

◆「働く女性のお手本となる理想のビジネスウーマン」のイメージにあてはまる女性有名人〔自由回答〕
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

順位	回答	人数
1位	天海祐希	266
2位	米倉涼子	41
3位	篠原涼子	24
	松嶋菜々子	24
5位	杏	18
6位	北川景子	13
7位	有働由美子	9
8位	菅野美穂	8
9位	石田ゆり子 / 木村佳乃 / 辻希美 / 水卜麻美 / 吉田羊	各7

＜2019年調査＞

◆「働く女性のお手本となる理想のビジネスウーマン」のイメージにあてはまる女性有名人〔自由回答〕
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

順位	回答	人数
1位	天海祐希	235
2位	米倉涼子	55
3位	北川景子	44
4位	篠原涼子	34
5位	吉田羊	24
6位	真矢ミキ	15
7位	有働由美子	12
8位	綾瀬はるか	11
	松嶋菜々子	11
10位	石原さとみ	8
	木下優樹菜	8

【働く女性のくらしとマネープラン】

◆働く女性の4割半が「貯蓄上手」、半数が「節約上手」を自認

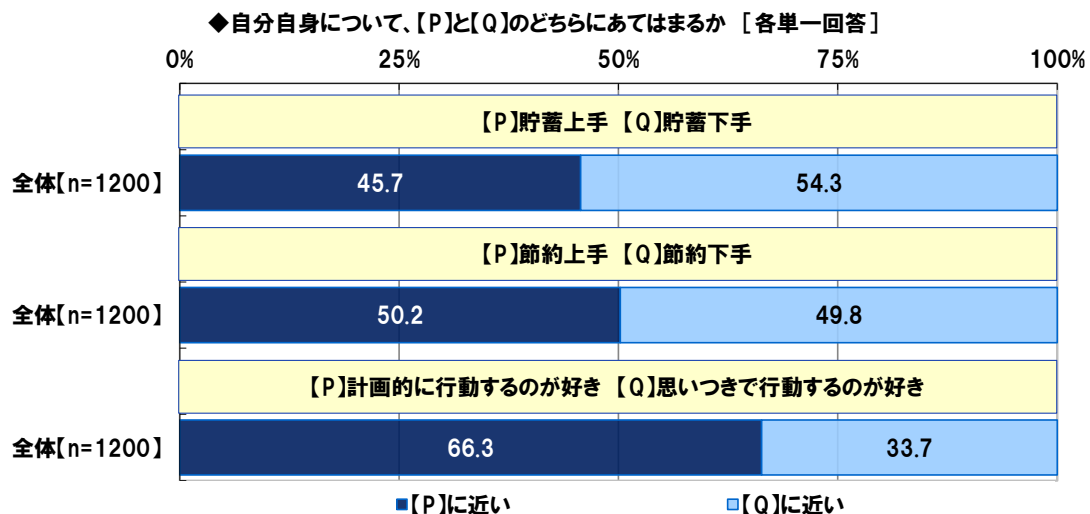
働く女性は、くらしやお金に関して、どのような意識を持っているのでしょうか。

まず、全回答者(1,200名)に、くらしやお金に関する事柄について、どのように自己評価しているか聞きました。

自身が「貯蓄上手」と「貯蓄下手」のどちらにあてはまるか聞いたところ、「貯蓄上手」は45.7%、「貯蓄下手」は54.3%となりました。自身を「貯蓄下手」と自己評価する人が、やや多くなりました。

次に、自身が「節約上手」と「節約下手」のどちらにあてはまるか聞いたところ、「節約上手」は50.2%、「節約下手」は49.8%と、拮抗する結果となりました。

また、自身が「計画的に行動するのが好き」と「思いつきで行動するのが好き」のどちらにあてはまるか聞いたところ、「計画的に行動するのが好き」が66.3%で多数派となりました。



◆生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていること 1位「変動費の節約」2位「家計簿をつける」

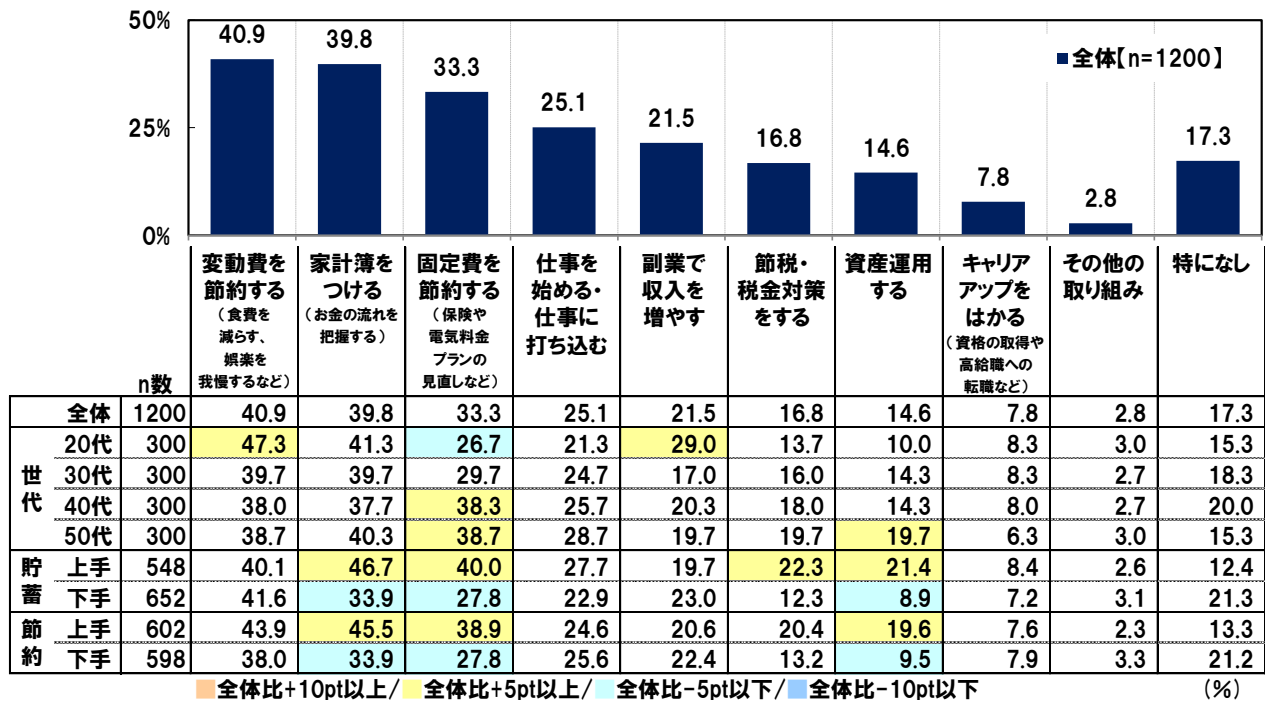
全回答者(1,200名)に、生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていることを聞いたところ、「変動費を節約する(食費を減らす、娯楽を我慢するなど)」(40.9%)が最も高く、次いで、「家計簿をつける(お金の流れを把握する)」(39.8%)、「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」(33.3%)、「仕事を始める・仕事に打ち込む」(25.1%)、「副業で収入を増やす」(21.5%)となりました。食費や娯楽費など、日々の出費を抑える節約に取り組むことで、生活に余裕を持たせている人が多いようです。

世代別にみると、20代では「副業で収入を増やす」(29.0%)が他の世代と比べて高くなりました。20代には、副業による収入アップで蓄えを増やしている人が多いのではないのでしょうか。50代では「資産運用する」(19.7%)が他の世代と比べて高くなりました。

貯蓄に関する自己評価別にみると、貯蓄上手を自認する人では「家計簿をつける(お金の流れを把握する)」(46.7%)、「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」(40.0%)、「節税・税金対策をする」(22.3%)、「資産運用する」(21.4%)が高くなりました。

また、節約に関する自己評価別にみると、節約上手を自認する人では「家計簿をつける(お金の流れを把握する)」(45.5%)、「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」(38.9%)、「資産運用する」(19.6%)が高くなりました。

◆生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていること [複数回答可]

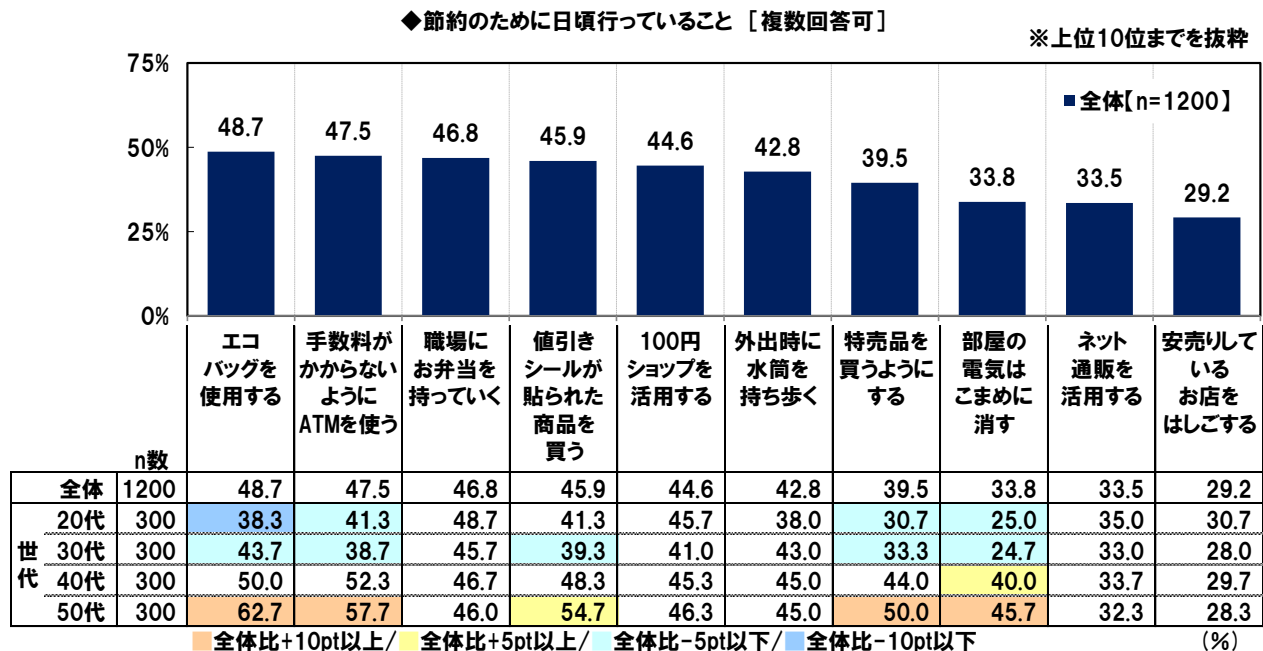


◆節約のためにやっていること 1位「エコバッグ使用」 働く50代女性の半数が「特売品購入」で節約

節約のために、具体的にどのようなことをやっている人が多いのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、節約のために日頃行っていることを聞いたところ、「エコバッグを使用する」(48.7%)が最も高く、次いで、「手数料がかからないようにATMを使う」(47.5%)、「職場にお弁当を持っていく」(46.8%)、「値引きシールが貼られた商品を買う」(45.9%)、「100円ショップを活用する」(44.6%)となりました。以前から一部の小売店ではレジ袋が有料となっていました。経済産業省と環境省が主導となってレジ袋有料化制度の運用指針の取りまとめが行われ、2020年7月からは全国の小売店にレジ袋の有料化が義務づけられることになりました。有料化が義務づけられる前から既に、エコバッグを使用してレジ袋代を節約していたという人が多いことがわかりました。

世代別にみると、50代では、「エコバッグを使用する」(62.7%)、「手数料がかからないようにATMを使う」(57.7%)、「特売品を買うようにする」(50.0%)、「部屋の電気はこまめに消す」(45.7%)が、他の世代と比べて高くなりました。50代女性には、普段から高い節約意識を持って生活している人が多いようです。

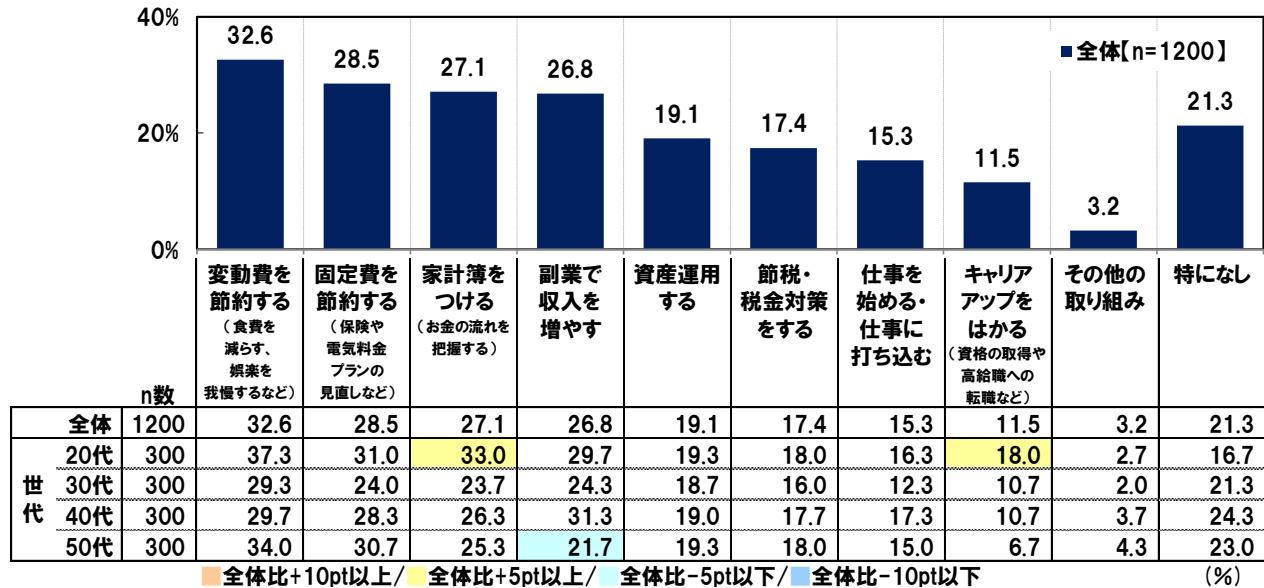


◆生活の余裕や貯蓄を増やすために取り組みたいこと 40代女性の1位は「副業で収入を増やす」

全回答者(1,200名)に、生活の余裕や貯蓄を増やすために、これから(引き続き/新しく/今以上に)取り組みたいことを聞いたところ、「変動費を節約する(食費を減らす、娯楽を我慢するなど)」(32.6%)が最も高く、次いで、「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」(28.5%)、「家計簿をつける(お金の流れを把握する)」(27.1%)、「副業で収入を増やす」(26.8%)、「資産運用する」(19.1%)となりました。

世代別にみると、20代では「家計簿をつける」(33.0%)や「キャリアアップをはかる(資格の取得や高給職への転職など)」(18.0%)が、他の世代と比べて高くなりました。また、40代では「副業で収入を増やす」(31.3%)が1位となりました。40代女性には、副業に関心を持っている人が多いようです。

◆生活の余裕や貯蓄を増やすために、これから(引き続き/新しく/今以上に)取り組みたいこと [複数回答可]



◆働く女性の副業収入 月平均額は 17,054 円、昨年平均額よりも 3,176 円アップ

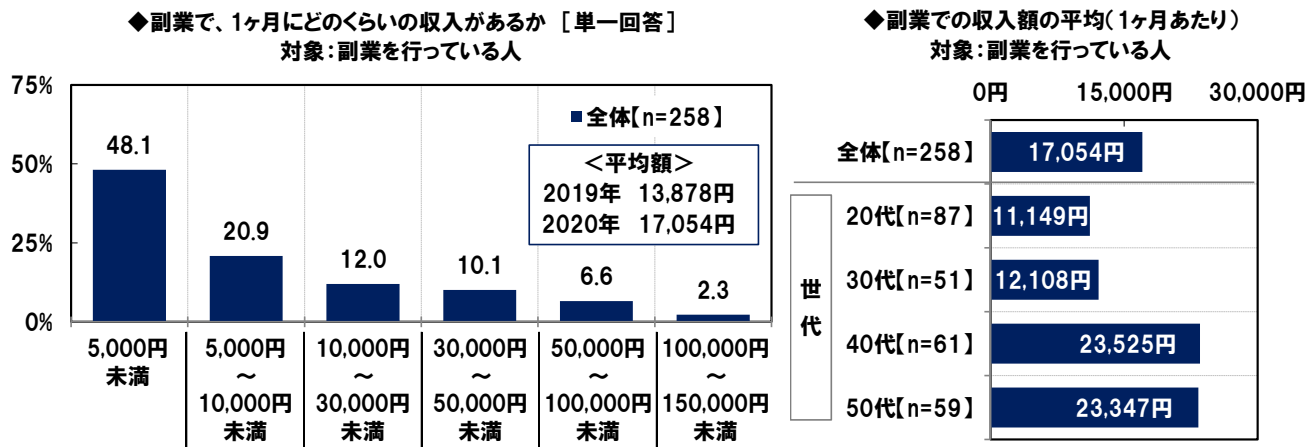
副業を行っている人(258 名)に、副業による 1 ヶ月の収入額を聞いたところ、「5,000 円未満」(48.1%)に多くの回答が集まりました。また、1 ヶ月あたりの収入額の平均は 17,054 円となりました。

平均額を世代別にみると、40 代(23,525 円)と 50 代(23,347 円)で平均額が高くなりました。

平均額を昨年の調査結果(※)と比較すると、2019 年 13,878 円→2020 年 17,054 円と、3,176 円高くなりました。消費税率の引き上げなどによる出費に対応するためか、昨年と比べて、副業収入を増やした人が多いようです。

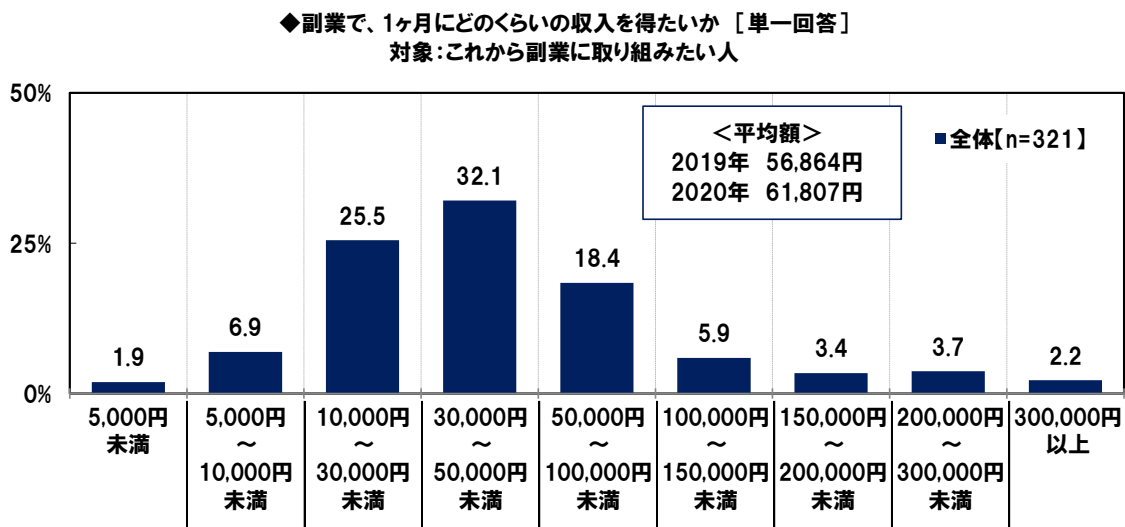
※『働く女性のくらしとお金に関する調査 2019』

https://www.jafp.or.jp/about_jafp/katsudou/news/news_2018/files/newsrelease20190312.pdf



また、これから副業に取り組みたい人(321 名)に、副業で 1 ヶ月にどのくらいの収入を得たいかを聞いたところ、「30,000 円～50,000 円未満」(32.1%)や、「10,000 円～30,000 円未満」(25.5%)に回答が集まり、希望する 1 ヶ月あたりの収入額の平均は 61,807 円となりました。

平均額を昨年の調査結果と比較すると、2019 年 56,864 円→2020 年 61,807 円と、4,943 円高くなりました。



◆働く女性の4人に1人が、着なくなった衣類をフリマアプリに出品してプチ収入を獲得

家庭で不要になったものを、節約や収入アップに利用している人はどのくらいいるのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、家庭で使っていないものや不要になったものを、どのように処分しているか聞きました。

《着なくなった衣類》では、「捨てる」(59.5%)に次いで、「リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう」(35.3%)や「フリマアプリに出品する」(23.7%)が高くなりました。着なくなった衣類でプチ収入を得ている人は少ないようです。

《使わなくなったファッション用品(バッグなど)》でも、「捨てる」(51.3%)に次いで、「リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう」(31.8%)や「フリマアプリに出品する」(21.5%)が高くなりました。

◆以下のものを、どのように処分しているか [各複数回答可]

※各上位5位までを抜粋

全体[n=1200]

着なくなった衣類

順位	回答	%
1位	捨てる	59.5
2位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	35.3
3位	フリマアプリに出品する	23.7
4位	自宅に置いておく	18.5
5位	友人・知人にあげる	17.3

使わなくなったファッション用品

順位	回答	%
1位	捨てる	51.3
2位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	31.8
3位	フリマアプリに出品する	21.5
4位	自宅に置いておく	17.8
5位	友人・知人にあげる	11.7

読まなくなった書籍

順位	回答	%
1位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	46.0
2位	捨てる	36.5
3位	自宅に置いておく	17.3
4位	フリマアプリに出品する	15.3
5位	友人・知人にあげる	6.3

使わなくなった家電

順位	回答	%
1位	捨てる	58.0
2位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	23.2
3位	自宅に置いておく	9.3
4位	フリマアプリに出品する	8.4
5位	友人・知人にあげる	8.0

使わなくなった家具

順位	回答	%
1位	捨てる	55.1
2位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	23.2
3位	自宅に置いておく	11.4
4位	友人・知人にあげる	7.8
5位	フリマアプリに出品する	6.8

もらったけれど使っていないもの

順位	回答	%
1位	自宅に置いておく	30.7
2位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	25.9
3位	捨てる	18.2
4位	フリマアプリに出品する	15.3
5位	友人・知人にあげる	12.4

また、子どもがいる人(503名)に、《子どもが遊ばなくなった玩具》をどのように処分しているか聞いたところ、「捨てる」(48.1%)に次いで、「友人・知人にあげる」(30.2%)が高くなりました。自分の子どもの成長などに伴い、使わなくなった玩具は、友人や知人の子育てに役立ててほしいと考える人が多いようです。

◆以下のものを、どのように処分しているか [複数回答可]

※上位5位までを抜粋 対象:子どもがいる人

全体[n=503]

子どもが遊ばなくなった玩具

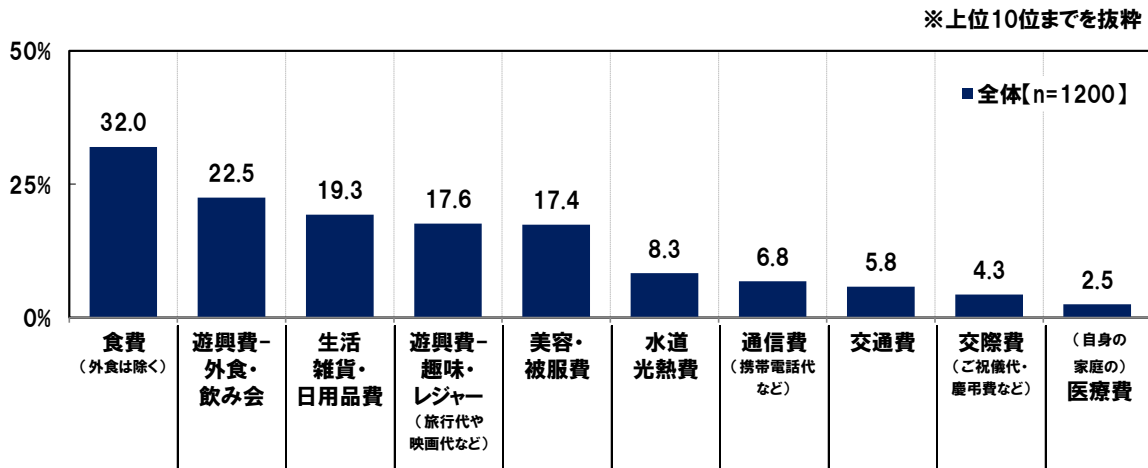
順位	回答	%
1位	捨てる	48.1
2位	友人・知人にあげる	30.2
3位	リサイクルショップ・古本屋に買い取ってもらう	22.7
4位	フリマアプリに出品する	14.3
5位	自宅に置いておく	8.9

◆消費税率引き上げ後、節約するようになった費用 1位「食費」2位「外食・飲み会」3位「日用品費」

2019年10月に、消費税率が10%に引き上げられました。

全回答者(1,200名)に、消費税率引き上げ以降、節約するようになった費用を聞いたところ、「食費(外食は除く)」(32.0%)が最も高く、次いで、「遊興費-外食・飲み会」(22.5%)、「生活雑貨・日用品費」(19.3%)、「遊興費-趣味・レジャー(旅行代や映画代など)」(17.6%)、「美容・被服費」(17.4%)となりました。食料品(外食・酒類以外)には8%の軽減税率が適用されます。しかし、食費は家計の中で大きな割合を占めるためか、食費を節約している人は多いようです。また、消費税率が10%となった費目の中では、外食・飲み会や日用品など、変動費が上位に挙がりました。日々の出費を抑え、こまめな節約を行っている人が多いことがわかりました。

◆消費税率引き上げ以降、節約するようになった費用〔複数回答可〕



◆働く女性の軽減税率対象品目の認知率、昨年調査より 34 ポイント上昇
◆「消費税率引き上げ後、キャッシュレス決済を積極的に利用」働く女性の 6 割強

2019 年の消費税率引き上げでは、食料品（外食・酒類を除く）や新聞等に 8%の軽減税率が適用されました。

全回答者（1,200 名）に、「軽減税率の対象になる品目を知っている（消費税率が 8%と 10%のどちらになるか線引きを理解している）」か聞いたところ、「はい」が 65.3%、「いいえ」が 34.8%となりました。

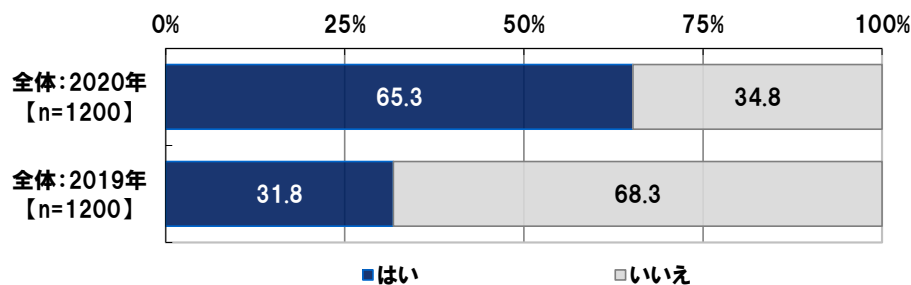
「はい」の割合を昨年の調査結果（※）と比較すると、2019 年 31.8%→2020 年 65.3%と、33.5 ポイント上昇しました。実際に消費税率が引き上げられたことを受けて、普段の生活の中で、どの品目が軽減税率の対象になるのかを実感するようになったという人が増えたのではないのでしょうか。

※『働く女性のくらしとお金に関する調査 2019』

https://www.jafp.or.jp/about_jafp/katsudou/news/news_2018/files/newsrelease20190312.pdf

◆消費税率の引き上げについて、自身にあてはまるか [単一回答]

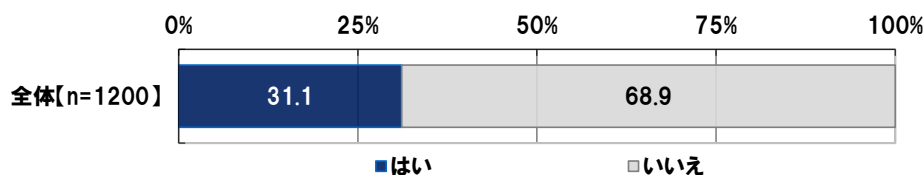
＜軽減税率の対象になる品目を知っている
（消費税率が8%と10%のどちらになるか線引きを理解している）＞



＜消費税率 10%への引き上げ後、軽減税率が適用されない商品の購入を減らしている＞か聞いたところ、「はい」が 31.1%、「いいえ」が 68.9%となり、消費税が 10%になった商品の購入を減らしている人は少数派でした。

◆消費税率の引き上げについて、自身にあてはまるか [単一回答]

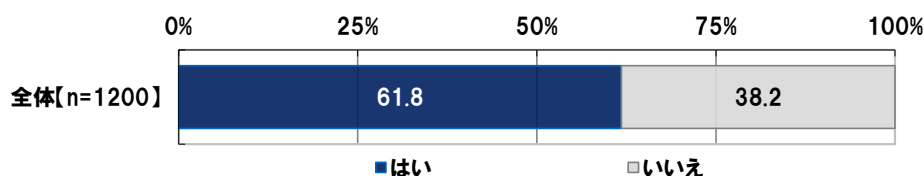
＜消費税率10%への引き上げ後、
軽減税率が適用されない商品の購入を減らしている＞



＜消費税率 10%への引き上げ後、ポイント還元を受けられるキャッシュレス決済を積極的に利用している＞か聞いたところ、「はい」が 61.8%となりました。働く女性の多くが、消費税引き上げに伴うキャッシュレス・消費者還元事業をきっかけに、キャッシュレス決済に対して積極的になっているようです。

◆消費税率の引き上げについて、自身にあてはまるか [単一回答]

＜消費税率10%への引き上げ後、
ポイント還元を受けられるキャッシュレス決済を積極的に利用している＞



- ◆働く女性が結婚資金として準備しておくべきだと思う金額 平均 186 万円
- ◆子どもの教育資金として準備しておくべきだと思う金額 平均 500 万円
- ◆住宅購入資金(頭金)のイメージは平均 700 万円、老後の生活資金のイメージは平均 1,479 万円
- ◆親の介護資金として準備しておくべきだと思う金額 平均 433 万円

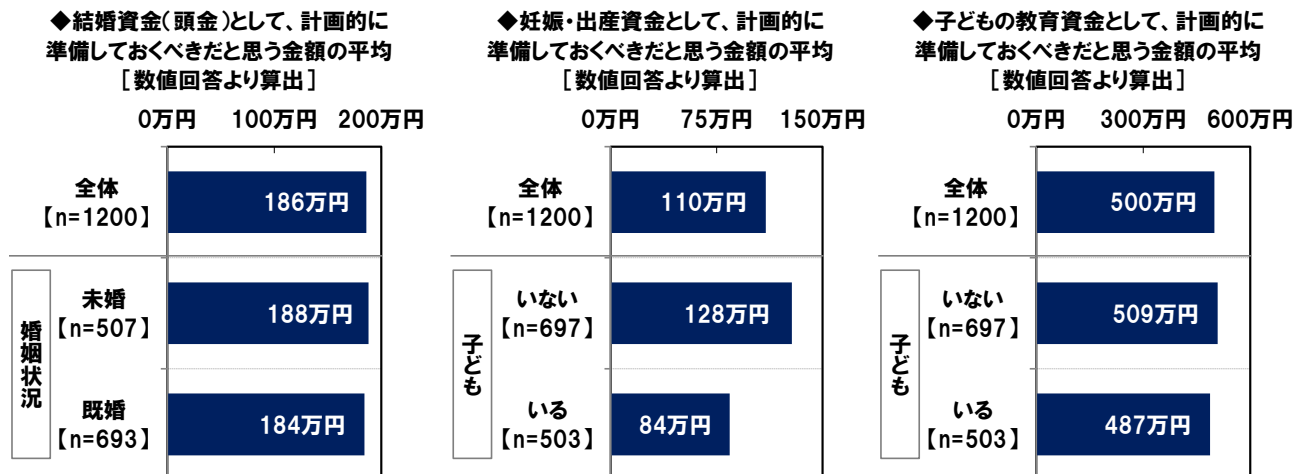
働く女性は、ライフイベントにかかる費用について、どのようにイメージしているのでしょうか。

全回答者(1,200 名)に、ライフイベントにかかる費用について、計画的に準備しておくべきだと思う金額を聞きました。

《結婚費用(頭金)》として、計画的に準備しておくべきだと思う金額を聞いたところ、平均額は 186 万円となりました。平均額を婚姻状況別にみると、未婚者は 188 万円、既婚者は 184 万円と、ほぼ同水準となりました。

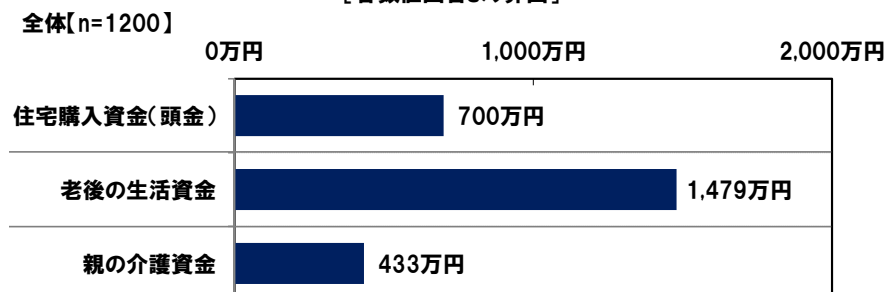
《妊娠・出産資金》では、平均額が 110 万円となりました。平均額を子どもの有無別にみると、子どもがいない人の平均額は 128 万円、子どもがいる人の平均額は 84 万円と、子どもがいない人のほうが高く見積もっていることがわかりました。

《子どもの教育資金》では、平均額が 500 万円となりました。平均額を子どもの有無別にみると、子どもがいない人は平均 509 万円、子どもがいる人は平均 487 万円で、子どもがいない人のほうがやや高くなりました。



その他のライフイベントについて、計画的に準備しておくべきだと思う金額の平均をみると、《住宅購入資金(頭金)》では 700 万円、《老後の生活資金》では 1,479 万円、《親の介護資金》では 433 万円となりました。

- ◆以下のライフイベントにかかる費用として、計画的に準備しておくべきだと思う金額の平均
[各数値回答より算出]

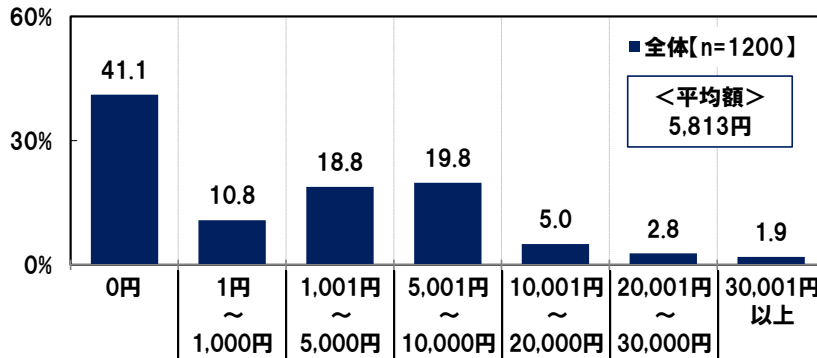


◆働く女性が自分へのごほうびにかけたい金額 平均 10,914 円/月、20 代の平均は 12,986 円/月

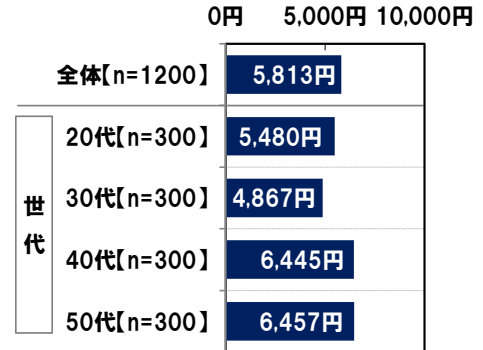
全回答者(1,200 名)に、「自分のための投資(スキルアップや資格取得のための勉強など)」に、1 ヶ月間でいくらかお金を使いたいと思うか聞いたところ、「0 円」(41.1%)に回答が集まりました。また、「5,001 円～10,000 円」(19.8%)や「1,001 円～5,000 円」(18.8%)にも回答が集まり、平均額は 5,813 円となりました。

平均額を世代別にみると、最も高いのは 50 代(6,457 円)、最も低いのは 30 代(4,867 円)となりました。

◆自分のための投資に、1ヶ月間でいくらかお金を使いたいと思うか
[数値回答]



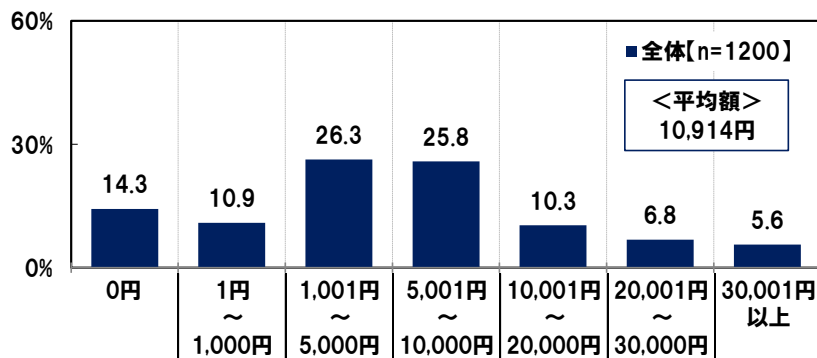
◆自分のための投資に使いたい
金額の平均(1ヶ月あたり)



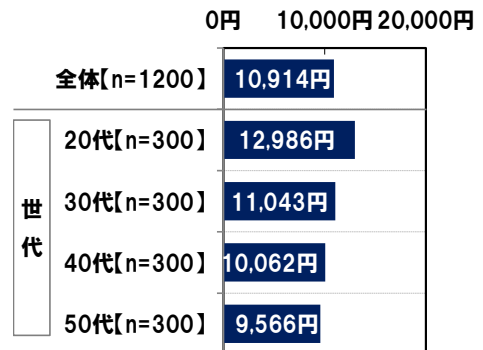
次に、「自分へのごほうび」に、1 ヶ月間でいくらかお金を使いたいと思うか聞いたところ、「1,001 円～5,000 円」(26.3%)や「5,001 円～10,000 円」(25.8%)に回答が集まり、平均額は 10,914 円となりました。

平均額を世代別にみると、20 代 12,986 円、30 代 11,043 円、40 代 10,062 円、50 代 9,566 円と、若い世代ほど自分へのごほうびに出費を惜しまない傾向があるようです。

◆自分へのごほうびに、1ヶ月間でいくらかお金を使いたいと思うか
[数値回答]



◆自分へのごほうびに使いたい
金額の平均(1ヶ月あたり)



◆働く女性がお金をかけたい「自分へのごほうび」は？ 1位「おいしい食べ物・外食」2位「旅行」

全回答者(1,200名)に、自分のためのごほうびとして、どのようなことにお金を使いたいと聞いたところ、1位は「おいしい食べ物・外食」(262名)、2位「旅行」(107名)、3位「美容・エステ」(105名)、4位「ファッション・洋服」(86名)、5位「スイーツ・お菓子」(82名)となりました。グルメを堪能することや、旅行で日常を離れること、美容・エステで自分磨きをすることなどを、日頃頑張っている自分へのごほうびにしたいと考えている人が多いようです。

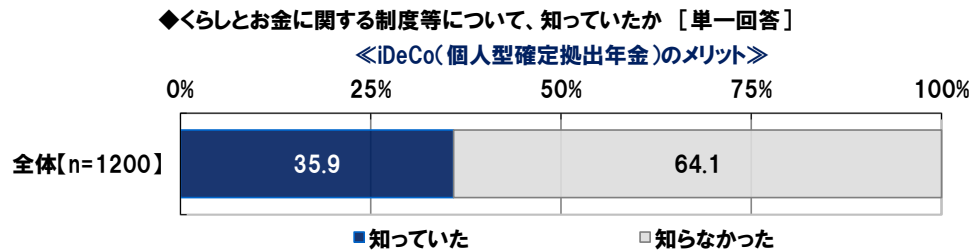
◆自分のためのごほうびとして、どのようなことにお金を使いたいか [自由回答]
全体【n=1200】 ※上位10位までを抜粋

順位	回答	人数
1位	おいしい食べ物・外食	262
2位	旅行	107
3位	美容・エステ	105
4位	ファッション・洋服	86
5位	スイーツ・お菓子	82
6位	ショッピング	63
7位	趣味	46
8位	コスメ・化粧品	31
9位	マッサージ	22
10位	お酒	16

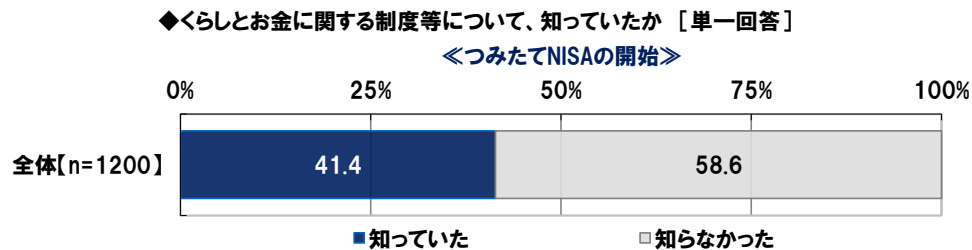
◆「幼児教育・保育の無償化」働く母親の認知率は 68%、子どもが未就学児の人では 79%が認知

全回答者(1,200 名)に、お金の制度に関する知識について聞きました。

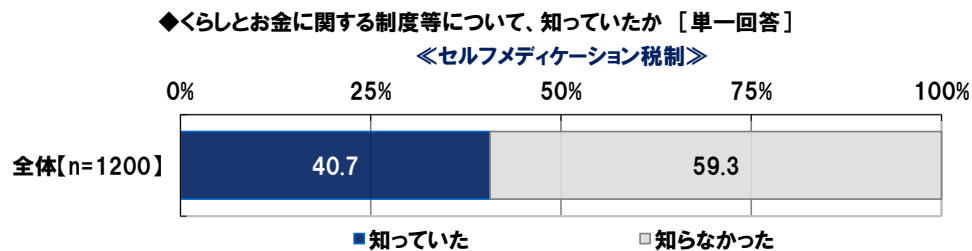
まず、《iDeCo(個人型確定拠出年金)のメリット》について知っていたか聞いたところ、「知っていた」の割合(以下「認知率」)は 35.9%となりました。iDeCo には、毎月の積み立て金額が所得控除の対象になるメリットがあり、2017 年からは、企業年金に加入している会社員、公務員や専業主婦なども加入できるようになりました。iDeCo のメリットについては知らない人のほうが多いようです。



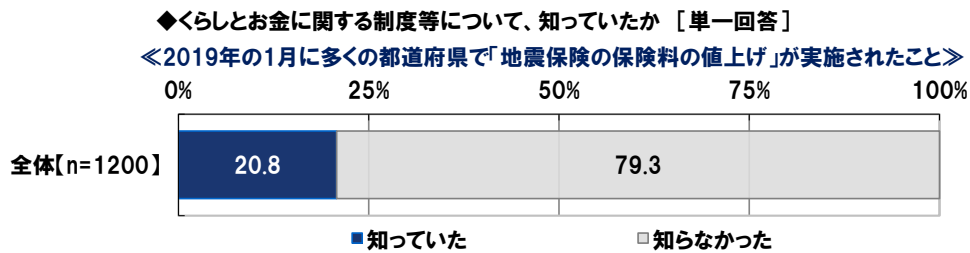
《つみたて NISA の開始》については、認知率が 41.4%となりました。つみたて NISA は 2018 年 1 月に開始された制度で、開始から 2 年以上が経過していますが、知らなかったという人が半数以上となりました。



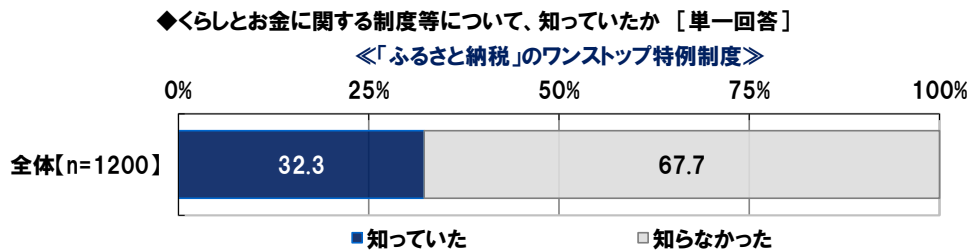
1 年間に OTC 医薬品(市販のかぜ薬など)を購入した金額の一部を所得税の課税対象から差し引ける《セルフメディケーション税制》については、認知率が 40.7%となりました。



《2019年の1月に多くの都道府県で「地震保険の保険料の値上げ」が実施されたこと》については、認知率が20.8%となりました。



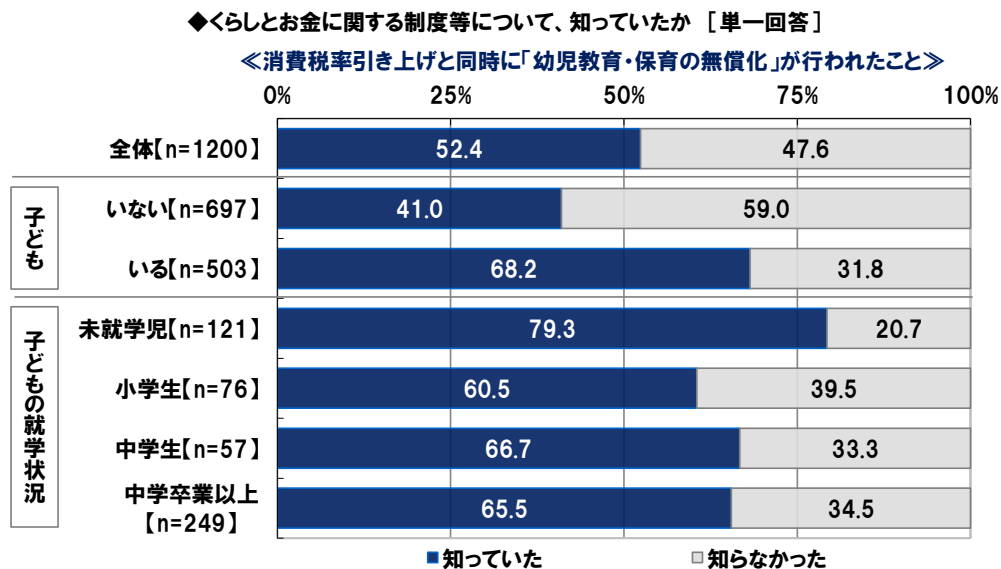
また、ふるさと納税の寄付金控除を受ける際に、1年間の寄付先が5自治体までなら、申請書の提出のみで確定申告が必要ない《「ふるさと納税」のワンストップ制度》については、認知率が32.3%となりました。



《消費税率引き上げと同時に「幼児教育・保育の無償化」が行われたこと》については、認知率が52.4%となりました。

認知率を子どもの有無別にみると、子どもがいない人では41.0%、いる人では68.2%となりました。

また、認知率を子ども(末子)の就学状況別にみると、子どもが未就学児の人では79.3%と高くなりました。幼児教育・保育の対象となる子どもを持つ母親の大多数が、幼児教育・保育の無償化について認知しているようです。



◆「人生 100 年時代のキャリアプランに有効なアドバイスをくれそうな有名人」

男性有名人 1 位は「タモリさん」「明石家さんまさん」 女性有名人 1 位は「天海祐希さん」

◆「お金の相談に有効なアドバイスをくれそうな有名人」 男性有名人 1 位は「池上彰さん」、女性有名人 1 位は？

全回答者(1,200 名)に、「人生 100 年時代のキャリアプランを相談したら、有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人を聞いたところ、男性有名人の 1 位は「タモリさん」「明石家さんまさん」(いずれも 39 名)、3 位は「池上彰さん」(30 名)となりました。長年、芸能界の第一線で活躍を続けているタモリさん、明石家さんまさんに、シニアライフを生き生きと過ごすためのキャリアプランを教わりたいと思う人は多いようです。

また、女性有名人の 1 位は「天海祐希さん」(70 名)、2 位は「黒柳徹子さん」(33 名)、3 位は「デヴィ・スカルノさん」(22 名)となりました。

◆「人生100年時代のキャリアプランを相談したら、有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人 [各自由回答]
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

「男性有名人」

順位	回答	人数
1位	タモリ	39
	明石家さんま	39
3位	池上彰	30
4位	マツコ・デラックス	27
5位	所ジョージ	23
6位	林修	21
7位	櫻井翔	15
8位	有吉弘行	11
9位	美輪明宏	10
10位	ビートたけし	9

「女性有名人」

順位	回答	人数
1位	天海祐希	70
2位	黒柳徹子	33
3位	デヴィ・スカルノ	22
4位	瀬戸内寂聴	15
5位	上沼恵美子	12
6位	吉永小百合	11
7位	久本雅美	8
8位	指原莉乃	7
9位	北川景子 / 高嶋ちさ子 仲間由紀恵 / 吉田羊	各6

最後に、「家計の見直しなど、お金の相談をしたら有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人を聞いたところ、男性有名人の 1 位は「池上彰さん」(24 名)、2 位は「タモリさん」(21 名)、3 位は「森永卓郎さん」「林修さん」(いずれも 15 名)となりました。お金の相談にわかりやすく回答してくれそうな、ジャーナリストの池上彰さんがトップになりました。

また、女性有名人の 1 位は「天海祐希さん」(40 名)、2 位は「荻原博子さん」(23 名)、3 位は「上沼恵美子さん」「北斗晶さん」(いずれも 12 名)となりました。経済評論家・ジャーナリストの荻原博子さんや、司会者・主婦タレントとして人気の上沼恵美子さんが TOP3 にランクインしました。

◆「家計の見直しなど、お金の相談をしたら有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人 [各自由回答]
全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

「男性有名人」

順位	回答	人数
1位	池上彰	24
2位	タモリ	21
3位	森永卓郎	15
	林修	15
5位	櫻井翔	14
6位	ヒロミ	13
7位	坂上忍	11
	春日俊彰	11
	明石家さんま	11
	有吉弘行	11

「女性有名人」

順位	回答	人数
1位	天海祐希	40
2位	荻原博子	23
3位	上沼恵美子	12
	北斗晶	12
5位	指原莉乃	10
6位	松居一代	8
	辻希美	8
8位	勝間和代	7
	松本明子	7
	有働由美子	7

注:本調査レポートの百分率表示は小数点第 2 位で四捨五入の丸め計算を行っているため、内訳の計と合計が一致しない場合や、全ての内訳を合計しても 100%とならない場合がございます。

《調査概要》

- ◆調査タイトル :働く女性のくらしとお金に関する調査 2020
- ◆調査対象 :ネットエイリアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする
全国の 20 代～50 代の就業女性
- ◆調査期間 :2020 年 2 月 4 日～2 月 6 日
- ◆調査方法 :インターネット調査
- ◆調査地域 :全国
- ◆有効回答数 :1,200 サンプル *有効回答から、年齢(10 歳区切り)が均等になるように抽出
(内訳)20 代、30 代、40 代、50 代 各 300 名
- ◆調査協力会社 :ネットエイジア株式会社

■■法人概要■■

- 協会名: 特定非営利活動法人(NPO 法人)日本 FP 協会
- 創立: 1987 年 11 月 19 日
※2001 年 7 月 2 日に特定非営利活動法人(NPO 法人)として、スタート
- 理事長: 白根 壽晴
- 所在地: <本部事務所>東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F
<大阪事務所>大阪府大阪市北区堂島浜 1-4-19 マニユライフプレイス堂島 5F
- 事業目的: 広く一般市民に向けてファイナンシャル・プランニングの啓発と普及を図る。
ファイナンシャル・プランニングの担い手(専門家)であるファイナンシャル・プランナーを養成・認証する。
- 事業内容: ・ファイナンシャル・プランニングに関する知識の啓発と普及
・ファイナンシャル・プランニングに関する調査、研究及び情報の提供
・ファイナンシャル・プランニングに関する書籍の発行
・国内外のファイナンシャル・プランニング関係機関との交流
・ファイナンシャル・プランナーの教育と資格認定試験の実施
- URL: <https://www.jafp.or.jp/>

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「日本 FP 協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先			
担 当	日本FP協会 広報部 広報課 井上・鈴木	TEL 03-5403-9742	FAX 03-5403-9795
		E-mail info@jafp.or.jp	